

令和3年度 全国学力・学習状況調査の三浦市の調査結果について

三浦市教育委員会

1 調査の概要と目的

令和3年5月に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」の三浦市立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行われるものです。

なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 実施状況

(1) 調査の実施日 令和3年5月27日(木)

(2) 調査の対象

小学校第6学年

中学校第3学年

(3) 実施項目

① 教科に関する調査(小学校:国語,算数 中学校:国語,数学)

② 児童生徒質問紙調査

(学習意欲や学習方法,生活,新型コロナウイルス感染症の影響等に関する質問)

(4) 実施校数

小学校 8校

中学校 3校

(5) 実施人数

小学校 255名

中学校 271名

(6) その他

調査結果については、序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、市としては公表しません。

3 三浦市 小学校の結果

(1) 三浦市立小学校の教科別平均正答率

	国語	算数
三浦市（公立）	56%	65%
神奈川県（公立）	63%	70%
全国（公立）	64.7%	70.2%

※ 国立教育政策研究所の報告書には、平均正答率の±5%の範囲内は同程度であると表記されています。

(2) 各教科の概要（問題番号）

【国語】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。(1一)
- 資料を用いた目的を理解する。(1二)
- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。(2一)
- 思考に関わる語句の使い方を理解し、語や文章の中で使う。(2二)
- 目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける。(2三)
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。(3二)
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。(3三(1)アウエ)
- 文の中における主語と述語との関係を捉える。(3三(2)イ)

【算数】 〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。(1(1))
- 条件に合う時刻を求めることができる。(1(4))
- 棒グラフから、数量を読み取ることができる。(3(1))
- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。(3(2))
- 三角形の面積の求め方について理解している。(2(1))
- 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。(2(2))
- データを二次元の表に分類整理することができる。(3(3))
- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。

(3(4))

(3) 児童質問紙調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の児童が肯定的な回答をした項目) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

- 朝食を毎日食べていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 友達と協力するのは楽しいと思いますか
- 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 算数の勉強は大切だと思いますか
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

〈課題がある項目〉

- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
- 新聞を読んでいますか
- 普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。

(4) 調査結果から分かること

教科別平均正答率については、全国(公立)と比べ、国語については低い傾向がありました。読解力に関してはおおむね理解している傾向が見られました。考えを記述するなどの思考力・表現力・判断力、漢字を文章の中で使うなどの漢字力に、課題が見られました。

算数については、全国(公立)と比べ、やや低い傾向が見られましたが、-5.2%なので、同程度であると考えられます。三角形の面積の理解以外は、算数的な知識や計算についておおむね理解している傾向が見られました。一方で、考えを記述するなどの思考力・表現力・判断力に課題が見られました。

質問紙では、生活習慣の定着や自分を肯定的にとらえる回答に高い傾向が見られました。また、課題の解決に向けて前向きに解決しようとする肯定的な回答が多く見られました。一方で、ゲームをする時間と読書をする時間については、課題が見られました。

4 三浦市 中学校の結果

(1) 三浦市立中学校の教科別平均正答率

	国語	数学
三浦市（公立）	61%	55%
神奈川県（公立）	65%	58%
全国（公立）	64.6%	57.2%

※ 国立教育政策研究所の報告書には、平均正答率の±5%の範囲内は同程度であると表記されています。

(2) 各教科の概要（問題番号）

【国語】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 話合いの話題や方向を捉える。(1一)
- 質問の意図を捉える。(1二)
- 話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。(1三)
- 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。(2二)
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。(3四)
- 文脈に即して漢字を正しく読む。(4一①)
- 文脈の中における語句の意味を理解する。(3一)
- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。(3二)
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。(3三)
- 相手や場に応じて敬語を適切に使う。(4三)
- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。(4四)

【数学】〈おおむね、理解している内容〉：○ 〈課題がある内容〉：●

- 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。(3)
- 関数の意味を理解している。(4)
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。(6(1))
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。(7(1))
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。(7(2))
- 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。
(9(1))
- 整数の加法と減法の計算ができる。(1)
- 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。(2)
- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。(6(3))

(3) 生徒質問紙調査の結果概要

〈良好な項目〉(90%以上の生徒が肯定的な回答をした項目) ※「どちらかといえば」「ときどき」を含む

- 朝食を毎日食べていますか
- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 友達と協力するのは楽しいと思いますか
- 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

〈課題がある項目〉

- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)
- 新聞を読んでいますか
- 普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。

(4) 調査結果から分かること

教科別平均正答率については、全国(公立)と比較しても国語、数学ともに同程度です。

国語では、話すこと・聞くことに対する理解が図られています。数学では、知識の定着に対して理解が図られています。

質問紙では、生活習慣の定着や自分を肯定的にとらえる回答に高い傾向が見られました。学習面でも課題に対して、自分で解決しようと前向きに努力する傾向が高いことが分かりました。一方で、ゲームをする時間と読書をする時間については、課題が見られました。

5 三浦市 教科調査および質問紙調査の傾向について

児童・生徒質問紙調査の結果と教科(国語、算数・数学)の正答率との関係について、教科の正答率が高い傾向が見られた質問等を抜粋し掲載します(相関関係があったものであり、必ずしもそれが因果関係を示すものではありません)。

- ・朝食を毎日食べることや毎日同じ時刻に寝ること
- ・1日当たりのテレビゲームをする時間、スマートフォンを使う時間が少ないこと
- ・1日あたり、家庭で学習をする時間が長いこと

- ・これまでの授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していること
- ・これまでの授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいること
- ・これまでの授業で、各教科で学んだことを生かし、自分の考えをまとめたり新しいものをつくり出したりする活動を行っていること
- ・国語では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり、使ったりしていること
- ・算数や数学では、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていること

以上のように、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、学習に関する基礎基本の定着、学びに向かう粘り強さ、自力解決等が児童生徒の学び意欲、学ぶ力の向上につながるということが分かります。

読書を全くしないと答えた児童生徒は、約36%にのぼりました。また1日4時間以上ゲームをする児童生徒は、小学校で約22%、中学校で約30%にのぼり、3時間以上では、小中学校ともに、約45%にもなります。さらに、新聞を読むことが課題となっています。

6 三浦市の今後の取組について

三浦市教育委員会では、三浦市の児童・生徒が確かな学力を身につけていくため、本調査の分析と考察を行いました。調査結果から学習に関する基礎基本の定着や基本的な生活習慣や学習習慣の確立に関して成果が見られるものの、思考力・表現力・判断力の育成に関する課題が明らかとなりました。

今後も、分析結果や各校での取組状況を共有する場を設け、情報提供と共有化を行い、授業力向上に向けて研修の充実や校内研究の共有化を図ってまいります。さらに、各学校では調査該当学年（小6・中3）だけでなく、全学年において授業や学習状況の見直しを図り授業改善につなげていく取り組みを行ってまいります。

学力を含めた子どもたちの生きる力を向上させるためには、家庭・地域・学校・教育委員会の連携が重要であると考えています。三浦市の子どもたちが、よりよい生活習慣と学習習慣を身につけるために、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。